

布施の心

(17)

【開発部の成功】

長崎新聞掲載／全3段(W378×H99)

富士紡績から、「静電気防止タイプのベルトをつくってほしい」との相談を受けた。まだその頃は市場にそのようなタイプがなかったので、私たち開発部は「腕の見せどころ」とばかり、張り切った。

研究の一方で、実際の製造ラインに潜り込んで、気の遠くなるような実地テストを何度も繰り返した結果、ようやく新しい方法（継ぎ目・段差のないウイービング法）が成功して、正式採用になった。この成功が、テフロンベルトを商品化する決定打になった。一九六九年、三十二歳のときだった。

「石の上にも三年」、やはりここでも物事が三年目にして日の目を見たのだ。

ここに至るまではいろいろな失敗があったが、今思えばみな楽しい思い出だ。

中でも記憶に鮮明なのが、明治製菓の件だ。

明治製菓のチョコレート製造ラインにテフロンベルトが採用された。開発部一同大喜びで、万全の態勢で製作と納入に当たった。

しかし、「ベルトの蛇行が止まらない」との緊急クレームを受けて、皆焦った。

明治製菓の工務課長から、「クリスマスシーズンなので、ラインのストップは許されない」と厳しく言い渡され、開発部全員、徹夜体制でベルトコンベアの監視と調整に当た



お菓子工場のイメージ
2023年3月本多産業株式会社は
設立50周年を迎えました。

本多産業株式会社
【本社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814
TEL:045-869-1133
【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677
TEL:0957-38-3520

る羽目になつた。

工場には力力才の甘い香りが満ちあふれていて、最初は食欲をそそられたが、しばらくするうちに鼻につくようになってきた。夜中に明治製菓の工場の方が親切に「欠けて不良品になったチョコレートが箱一杯取つてありますから、よかつたらどうぞ」と勧めてくれたが、とても手に取つて口にする気分ではなかつた。

一九六五年末に日本タッジファイバーズ社に入社して以来、苦労の連続だった。ふと振り返つてみると、足かけ六年が経つていた。

最初の三年間は無我夢中だったが、四年目から成果が出始めた。

一九六九年のテフロンベルトの製品化の成功、ベルトの2ブライ化の成功、広幅ベルトとその蛇行防止の成功、ウイービングエンドレス加工法の成功など、成功が続いた。もちろん、これらの成功は私ひとりによるものではないが、私としては「十分会社に貢献できた」との満足感と達成感が芽生えはじめた。同時に、自分の力を試したいという気持ちも芽生えてきた。

私は、いつの頃からか独立を考えるようになつた。

しかし、独立は大きなリスクを伴う。現状を維持していれば、明日は約束されるが、ひとたび独立した途端、私だけでなく、妻や子どもたち一人も不安定に晒すことになる。知人や会社の同僚にそれとなく相談したが、皆心配して引き止めてくれた。誰よりも、妻は生活の不安を強く訴えた。決断は容易ではなかつたが、しかし一方で、若氣の至りだろうか、私の独立への思いは日を追つごとに募つて行つた。